

特集



日本とガーナ2つの祖国に抱かれて

あいぽーと徳島人権教育啓発リーダー養成講座 第8回「外国人の人権」
●平成31(2019)年2月7日実施

講師

矢野 デイビット さん

一般社団法人Enije(エニージェ)代表

講演内容

■日本とガーナの間に生まれて

僕の父親は日本人で、母親はガーナ人です。父は建築家として世界中を回っていて、野口英世記念館を建てるために訪れたガーナで母に出会いました。僕自身は6歳の頃に日本に生まれました。それまではガーナに住んでいましたが、ある晩に家が盗賊団に襲撃されてしまいます。かろうじて命はとりとめたものの、私たちが身を守るためにできることは、すぐにも日本に逃げることでだけでした。

そこで自分の日本での人生がスタートするのですが、家族みんなとスローライフを送りたかった父と、言葉も覚えられず、日本での友達も作れない母のもと、家族はバラバラになってしまい、僕たち3人の子どもは児童養護施設で暮らすことになりました。

20歳になった頃にはすっかり日本に馴染んでいました。しかしある時、母親から「自分なりに頑張ってきたけど難しかった。だから私はガーナに帰る道を選ぶと思う」と告げられたこと、そしてアルバイト先のお客さんに「自分はガーナのことを何も知らない」と話した時に「ガーナに帰ってなくても、文化を学ぶ方法はいくらでもあったはず。君は学ばないことを今日まで選び続けてきただけなんだ」と言われたことをきっかけに、自分のもうひとつのルーツとしてのガーナを強く意識するようになりました。

■ひとつの魂として向き合ってくれる人

その出来事から3週間後に渡ったガーナ。たった10日間の滞在でしたが、そこでもやはり僕は肌の色や雰囲気から「外国人」として扱われました。日本で自分は日本人・外国人のどの枠にも当てはまらなかったし、当てはめてもらえなかった。居場所を探しに来たガーナでもそれが見つからず、自分の中でアイデンティティが崩れていってしまったんです。

傷ついて荒れてしまった僕に、母はこう言ってくれました。「デイビット、あなたたちを母として育てることができなかったのに、ガーナまで会いに来てくれて本当にありがとう。自分の人生に悩んでいてもきつと大丈夫、あなたは自分の人生を信じなさい」。その瞬間、日本で母が悩んでいた時に、僕がすべきだったことがわかりました。きれいな言葉や気の利いた言葉をかけるのではなく、今の母のように人と一緒に寄り添うべきだったんです。これまで僕と向き合ってくれていた人たちも、そうやって僕を一つの



魂として向き合ってくれていたのに、僕はこれまで自分の思い込みで生きづらさを勝手に感じていただけなんです。

■大きなきつかけになった小さな出会い

その後、再びガーナを訪れた僕を、ある出会いが待っていました。友達と一緒に行ったレストランで、ストリートチルドレンの少年が僕にお金をせがんできました。あまりにしつこいので、ハッキリと断ってやろうとその少年の目を見た時、その子が昔の自分にそっくりだったことに気づいたんです。理不尽な扱いで虐げられたとき、「いつかこんな世の中をひっくり返して、弱い人たちを守ってやる」と思っていた自分が、いつの間にか大人になって子どもたちから問われる側になったんだと思いました。

それまで社会貢献には一切興味がなかった僕ですが、誰にも守ってもらえない、絶望しか抱えてない子どもたちの人生を変えてやろう、そう思っ友達の助けを借りながら団体を立ち上げ、ガーナに幼稚園や学校を作る活動を始めました。僕自身が、日本で教育やスポーツを通して人生観や歩む道の方向性が全部変わったこともあり、人を変えられるのは教育だと思っていたからです。

■いつか彼らへの支援が必要なくなる日を目指して

第6回 徳島カラフル文化祭 —私の色、あなたの色、多様な性の物語—

2月24日(日)
ときわプラザ(徳島県立男女共同参画交流センター)
ブライダルコアときわホールにて

性の様々なあり方を見て、知って、感じる機会となるよう、映画「カラコエの花」の上映、演劇、シンポジウムなどをSAG徳島等との共催により実施しました。

シンポジウムでは、同性パートナーシップ制度をテーマに、「誰もが生きやすい社会づくり」について意見交換がありました。(※)SAG徳島…鳴門教育大学の大学院生を中心に、セクシュアル・マイノリティに関する活動を行い、社会の理解を促進するための団体



LGBTに関する図書・DVDのご紹介



図書

学校・病院で必ず役立つ
LGBTサポートブック

はたちさこ
藤井ひろみ
桂木祥子 著、編集

DVD

誰もがその人らしく
—LGBT—

企画・制作
東映株式会社



あいぽーと徳島では、LGBTに関する図書やDVDの他、人権に関する資料を無料で貸し出しています。ぜひご利用ください。

大島青松園 視察交流研修

3月5日(火)
国立療養所 大島青松園にて

「知ってほしい ハンセン病のこと」をテーマとして大島青松園を訪れ、フィールドワーク、ハンセン病回復者の方々との交流・意見交換会を実施しました。



●参加者の感想

- フィールドワークで生活の内容がわかり、意見交換会では、現在の気持ちなどが良くわかった。
- ハンセン病についての正しい経過を知るきっかけができた(入所者から生の声で知ることができた)。人権問題は正しい知識を広める事が本当に必要だと痛感しました。

障がい者問題学習

2月20日(水)、上板町立東光小学校5年生があいぽーと徳島に来館、車いす・アイマスク体験と施設見学により、障がい者問題について学習をされました。



(音声コード)



(音声コード)